24年パリ大会への道

「ケガから復帰すると記録が良くなることが往々にしてあります」

陸上選手 **山縣亮太** × 参議院議員 **橋本聖子**

橋本聖子（はしもと・せいこ）氏紹介
1964年10月5日、北海道生まれ。1984と88年オリンピックの選手に選ばれ、「冬のスピードスケート女王」と称された。3度オリンピック出場の、新潟大学附属高校教諭時代に全日本スプリント、全日本選手権を連覇（12連覇）。3年間ドイツにて全日本選手権を制覇した。スピードスケートの強化と自転車競技の選手としても活躍し、一度も怪我をしないで新潟県オリンピックに出場（1992年）。ソルトレイクシティ大会（1992年）ではスピードスケート女子1500m銀メダルを獲得した。1995年の参議院議員選挙の比例区で自民党から公認候補。2014年参議院議員。2019年参議院議員議会長を歴任した後、2019年9月、東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣（内閣府特命担当）男女共同参画（大臣）女性活躍担当大臣として初入閣。2021年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会では大会組織委員会の会長を務めた。現・ビジネス・ブレインズ議員連盟会長

ケガと記録の関係

橋本　病気で練習できない期間は、正直……苦しかったです。もちろん、練習するのはそれ自体で苦しいんですよ。中学校の時、練習ができなくなると「ガボラかー」などとふざけ合ったりしていた練習ができなくなると、苦しいはずの練習が恋しくなるんです。高校の時も大変なんです。時間がかかるとはいえ、ケガをしたあとは一切ないですね。病気で練習できない期間を経験すると、凄く食欲になるというか、練習をしたくてしてできるという人がいるっていうことなんですよ。そうすると自然に、練習に集中できるようになるんです。高校の時、インターハイ、ウィンターカップなどの大会に出ていたんですが、小学校の時、ケガが増えて来たから、学校で走れない日々を送っていました。そのころ、ケガをしている期間は、練習できない、サボれると思える期間はありましたね。

山縣　自分も思い返すと、練習をしなくなるとなるほどって、サボりたくなるんですよ。でも、ケガをしている期間は、練習できない、走れないことの方がとても凄く悔しいんです。中学生くらいから、ケガをしていない期間は、練習をしたくてしたくてしょうがない状態になっていました。

橋本　病気で練習できない期間は、練習をしなくなるとなるほどって、サボりたくなるんですよ。中学校の時、練習ができなくなると、苦しいはずの練習が恋しくなるんです。高校の時も大変なんです。時間がかかるとはいえ、ケガをしたあとは一切ないですね。病気で練習できない期間を経験すると、凄く食欲になるというか、練習をしたくてしてできるという人がいるっていうことなんですよ。そうすると自然に、練習に集中できるようになるんです。高校の時も大変なんです。時間がかかるとはいえ、ケガをしたあとは一切ないですね。病気で練習できない期間を経験すると、凄く食欲になるというか、練習をしたくてしてできるという人がいるっていうことなんですよ。そうすると自然に、練習に集中できるようになるんです。

山縣　はい、そういう一緒感じます。「慶応」大学時代、卒業後も短距離競技をやっていたんですが、小学校の後は、ずっとケガをしていないんです。中学、高校、大学、実業団、ずっとケガをしていないんです。ケガをしていないっていうのは、やっぱりトレーニングが楽しくなるんです。でも、ケガをしていない期間は、練習をしたくてしたくてしょうがない状態になっていました。

橋本　山縣選手の誕生日の6月10日から、卒業後はトレーニングが辛いと思うんです。なおさらです。

山縣　はい、そういう一緒感じます。「慶応」大学時代、卒業後も短距離競技をやっていたんですが、小学校の後は、ずっとケガをしていないんです。ケガをしていないっていうのは、やっぱりトレーニングが楽しくなるんです。でも、ケガをしていない期間は、練習をしたくてしたくてしょうがない状態になっていました。

橋本　山縣選手の誕生日の6月10日から、卒業後はトレーニングが辛いと思うんです。なおさらです。

山縣　はい、そういう一緒感じます。「慶応」大学時代、卒業後も短距離競技をやっていたんですが、小学校の後は、ずっとケガをしていないんです。ケガをしていないっていうのは、やっぱりトレーニングが楽しくなるんです。でも、ケガをしていない期間は、練習をしたくてしたくてしょうがない状態になっていました。

橋本　スプリントにとって重要なる、体にメスをされるというのは、なかなか勇気が要ることでしょうね。

山縣　100メートルというのは凄くシビアな世界なんです。ちょっとでも、ケガをしていない状態で練習できるというのは、やっぱりすごくありがたいことなんです。そこで、ケガをしていない状態で、ケガをしていない状態で、ケガをしていない状態で